

# 林木遺伝資源情報

第2号 - 2 2002.9  
独立行政法人 林木育種センター



国指定天然記念物の樹木の収集保存シリーズ No.3

## 関東・中部地方における国指定天然記念物の収集・保存

林木育種センター 遺伝資源部 藤原 昭博

### 1 はじめに

林木育種センター本所では、巨樹、特異な形態、希少性などの学術上貴重な特徴を持つ国指定天然記念物の樹木を対象に、関東育種基本区内（関東、中部、新潟県を除く甲信越、福島県）から小枝を収集し、クローン増殖のうえ保存を行っています。本格的な収集・保存は、林木のジーンバンク事業の開始後の1993年からですが、スギの天然記念物などについては、1966年から収集・保存を行っています。

収集・保存を行った天然記念物は、その後、形態、生育状況などの特性調査を行い、林木育種などいろいろな科学研究の材料として利用されることとなります。

一方、最近では、積極的に指定天然記念物の後継樹の確保を図ろうとする動きが地方自治体の文化行政でも顕著にみられるようになってきています。センターでの天然記念物の増殖・保存は、こうした地方自治体の動きに貢献することにもつながります。一つの事例ですが、センター本所の所在する十王町へ天然記念物のさし木増殖個体の譲り渡しを行いました。

以下に、センター本所での収集及び増殖・保存の取り組みの現状と、収集・保存した代表的な天然記念物を紹介します。

### 2 増殖・保存の現況

関東育種基本区内には樹木に関係する国指定天然記念物は137件あり、そのうち77件の収集・増殖を実施しました。その結果、表-1のように2002年3月末現在で51件を保存し、10件が増殖中です。

収集したものの保存できないものが16件あります。このなかには、定植木が遅霜の被害を受けたクスノキやタブノキなどがあり、現在では防寒対策をして確実に保存するようにしています。

また、アカシデのように無性繁殖が困難なものは、活着が比較的良好とされる夏さしによるさし木増殖の外、つぎ木増殖も行いましたが、増殖保存す

表-1 国指定天然記念物の樹種別保存件数

樹 種	保存件数
アカマツ	1
イチョウ	5
カヤ	1
クリ	1
ケヤキ	8
サワラ	1
スギ	22
ハナノキ	2
ハリモミ	1
ビャクシン	3
フジ	2
ヤマグワ	1
ヤマザクラ	3
計	51

ることができませんでした。高齢なものから採穂されたナギ、コウヤマキなどでもさし木活着が悪く、保存できていません。このように、増殖に失敗した天然記念物については、違う増殖方法の採用、つぎ木の異種台木の採用、さし付け床の用土や水分管理方法などの検討を行い、再度増殖を実施する予定です。

新レッドデータブックで絶滅危惧 類にランクされているハナノキは、

生息地や個体として天然記念物に指定されているものが全国に9件あります。このような絶滅の危険が増大しているハナノキは、現地での保全はもとより、生息域外（センターの保存園）に増殖保存することが重要と位置付けし、精力的に天然記念物の増殖保存に努めています。現時点では、4件はさし木増殖のうえ保存を完了し、3件が増殖中です。現地では実生の更新樹が皆無に近く、将来の保存が危惧されており、DNA分析などにより遺伝的多様性の評価を行うとともに、繁殖特性等を解明し、具体的な保全方法を開発する研究を開始したところです。その技術が開発されれば、センターに保存されたハナノキの各クローン個体が有効に活用されることになります。



「坂本のハナノキ」(センター本所保存園)

### 3 代表的な天然記念物の紹介

#### (1) 巨樹

「杉沢の大スギ」：福島県安達郡岩代町



巨木で、特に樹高は50mに及び、見る者の度胆を抜きます。幹周も12.4mあります。全景としての美観はスギの巨木の中で第一といわれています。

センター本所内の保存樹は、巨樹の片鱗を未だ見せていません。

「原町の大ケヤキ」：群馬県吾妻郡吾妻町



樹幹の太さは日本でも屈指のもので、ケヤキ三名木の一つとされています。現在は、分岐していた多くの枝が落とされ、見る影もありませんが、樹高20m、幹周14mもある大木だったといえます。

右の写真はセンター本所内の保存樹です。主幹の見分けが難しくそうな木です。今後も枝が多く分岐しそうな雰囲気です。これも、この指定樹木の性質でしょうか。



#### (2) 特異な形質木

「練馬白山神社の大ケヤキ」：東京都練馬区



左の木は東京都で一番大きなケヤキです。右の木は根元回りに大きなコブがあります。製材にした場合、

材面にきれいな模様が表れるかもしれません。美しい空が表れるものは希少価値が高いものです。この2本の大ケヤキは、源義家が後三年の役で奥州征伐に下る際に神社に奉納したものといわれています。

#### (3) 分布上特徴のあるもの

「いぶき山イブキ樹叢」：茨城県多賀郡十王町



千葉県から福島県にかけての太平洋岸地域は、イブキ（ビャクシン）の天然の分布が少

ない地域です。特に、当該指定地のものは樹勢が衰え、滅失のおそれの高い状況でした。

平成8年7月に現存8個体から採穂し、さし木増殖しました（右の写真）。樹勢が相当



衰えていたため、活着するかどうか心配でした。



活着したこれら4個体（クローン）を、平成14年2月にセンター本所の保存園内に植栽・保存しました（左の写真）。

また、現地での保存を図るため、平成14年3月、増殖した3クローン、4本について、地元十王町と連携して天然記念物指定地の自生地へ里

帰りさせました（下の写真）。

